

巻頭言

本校では、平成27年度から「卒後を見据えたキャリア発達を促す指導法の研究～協同学習と生活指導の充実を目指して～」に3カ年計画で取り組むこととし、今年度が3年次目となりました。今年度の課題研究では、昨年度作成した「協同学習授業マニュアル」をさらに改訂し、このマニュアルに基づいて、年間を通して、授業担当者は授業を行い、実践レポートを作成しました。この実践レポートは、研修部が内容の過不足や協同学習のとらえ方の修正を行った上で、授業案を作成して研究授業を行ってもらい、授業者は授業参観者によるアンケートを踏まえて指導案に評価を記入して、それぞれの授業における協同学習の成果のレポートを作成しました。そして、教科・形態部会ごとに実践レポートと研究授業の指導案を基に協議を深め、各部会としてのまとめのレポートを作成しました。

今回の協同学習に関する実践研究によって、生徒のコミュニケーション能力がどの程度向上したのかを把握するために、子ども理解支援ツール「ほっと2014」を6月と12月で2回実施しました。その結果、全体として、生徒のコミュニケーション能力の底上げが図られていることが明らかになり、協同学習の有効性の一端を確認することができました。

平成27年度から取り組んできた協同学習の授業実践の効果は、授業のみならず、学校説明会や学校見学会などでの生徒の発表や来校者とのコミュニケーション場面でも発揮され、確実な成果ととして実感することが増えてきました。

協同学習の方法を活用した授業で、「主体的・対話的で深い学び」の実現に迫る、「主体的・対話的」な学習活動は実現することができました。しかし、「深い学び」に至るまでには、まだ道のりが残っています。「深い学び」に至るために、各教科等の「見方・考え方」の一端は協同学習スキルに既に盛り込まれています。今後は、「深い学び」に迫る研究が必要になります。

現段階までの3年間の実践研究の成果をまとめ、地域の特別支援教育のセンターとしての役割から、「知的障がい教育における主体的・対話的で深い学び」を実現する方策を地域の関係機関とともに深めていくため、ここに、本冊子を発刊いたします。

校内研究の推進に当たっては、本校の研究アドバイザーとして、北海道教育大学函館校の北村博幸教授に、本校まで足を運んでいただき、重要かつ示唆に富む御助言をいただき、研究を推進することができました。深く感謝申し上げます。

本冊子は、知的障がい教育におけるキャリア教育の創造という大きなテーマに協同学習の観点から迫ろうとするものです。是非、忌憚のない御意見と御助言をいただければ幸いです。また、今後とも本校への御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成30年3月

北海道今金高等養護学校長 高 嶋 利次郎